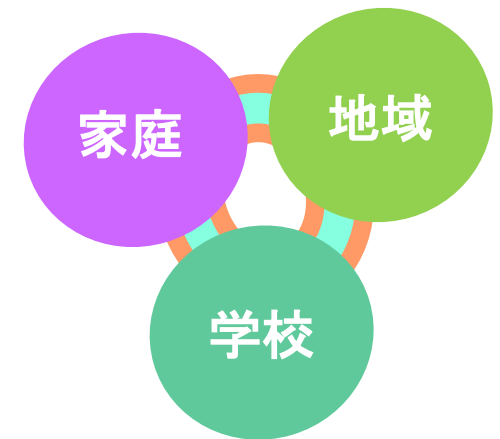


持続可能なCSに するために

— CS を立ち上げた校長の経験から —



令和3年11月22日（月）

大分県教育センター

教科研修・ICT推進部

指導主事 都留 俊之



<お話しする内容について>

- 1 CSを立ち上げた経緯
・・・なぜ、CSだったのか
- 2 令和3年度初任者研修にCSのセッションを入れたわけ
- 3 初任研の実際
- 4 研修の成果と課題



1 CSを立ち上げた経緯



- 人口 約6万9千人
- 九州で一番広い市
- 東九州道全線開通
- 延岡市との交流
- 小19校、中12校

- 学校は市中心部に位置
- 人口減少（年1千人）、
地域活性化が課題

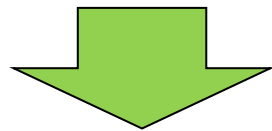
- 生徒数500人規模、
17～18学級で推移

- 校区3小学校と小中
連携、H28CSスタート

Ⅰ CSを立ち上げた経緯

・・・なぜ、CSだったのか

- (1) “ふるさと創生”の市全体のニーズ
- (2) 中学生(小学生)の地域貢献の地域ニーズ
- (3) “地域のチカラ”を借りたい学校ニーズ
- (4) 校区の小中連携教育の取組・実績



- ・ 本校単独のCS 6年目 (H28～)
- ・ 中学校区のCS 4年目 (H30～)

“しくみ”の
必要感

当初の話し合い

- ・ ・ CSは「誰が、どこに向かって、何を」するのか？

学校の教育目標の
実現に向けて3者が
できることは？

指示待ちの
関係者



- ①誰がするの？
- ②どこに向かって？
- ③何をするの？

持続可能なCSへ・・先を急がない、見える化が先



第2回チーム会議から生徒代表も参加



持続可能なCSへ・・・先を急がない、見える化が先

- 会議へ生徒も参加
- 校内に「CSルーム」の設置
- 活動部会設置は、熟議で声が出てから

CS立ち上げ、4年目の成果と課題

- 見える化がCSの認知度向上
- CSと地域協育ネットワークが“ふるさと創生”の両輪、若い教員ほどフレキシブルに動く
- 総合的な学習の時間とCSの相乗効果
- ▲そして定年退職・・・。活動の形骸化させない、キーパーソンは誰か

2 令和3年度初任者研修にCSのセッションを入れたわけ



(1) 大分県教育委員会「『芯の通った学校組織』推進プラン第3ステージ」(令和2年3月)

<観点IV> 学校・家庭・地域による目標の協働達成

(2) 大分県公立学校教員育成指標

「家庭、地域との連携」の観点や評価指標はある。しかし、CSを念頭に体系的に整備されていない。

(3) 若い教員ほどフレキシブル

CSの持続可能な取組には、初任者からキャリアステージに応じて「地域とともにある学校づくり」を理解することが必要。総合的な学習との相乗効果。

学校と地域の協働：地域ニーズを活かした

「総合的な学習」

第28回生活科・総合的な学習全国大会（大分大会）



学校の中に地域を！

区長をとおして、世代ごとに市民300人アンケート

2 令和3年度初任者研修の実際



○目標：探究的な学びを実現する総合的な学習の時間の授業づくり、
地域とともにある学校づくりを進めるためのコミュニティ・ス
クールの考

え方を、講義・演習・研究協議等を通して理解できる。

○期日：令和3年10月28日（木）

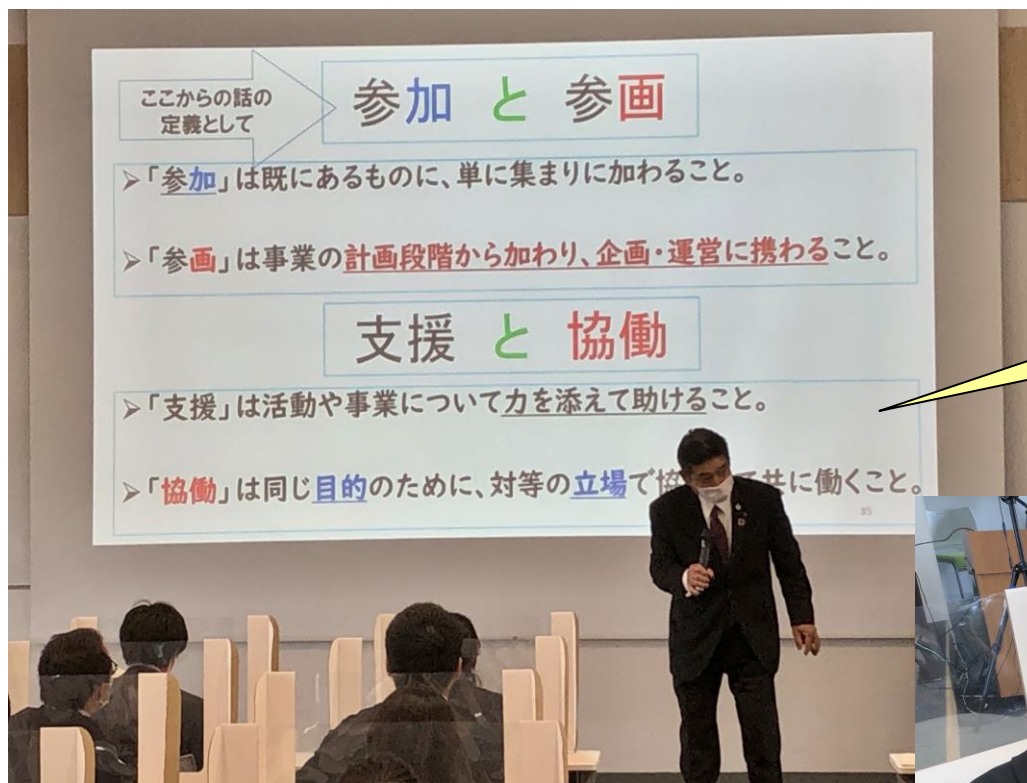
○対象：令和3年度初任者研修対象の中学校教諭 63名

6

時間	内容	育成指標	場所
9:00~9:30	受付		1階玄関
9:30~9:35	諸連絡		講堂
9:35~12:00	講義・演習 「探究的な学習過程の充実に向けた総合的な学習の時間」 <講師> 甲南女子大学教授 村川 雅弘	E1	講堂
13:40~16:00	講義・研究協議 「コミュニティ・スクールの取組で広がる学校・家庭・地域の魅力」 <講師・助言者> 玖珠町教育委員会教育長 梶原 敏明	M1	講堂

総合とCSの相乗効果
に気付かせたい

2 令和3年度初任者研修の実際



CSマイスターでもある
梶原教育長の講義・演習

4人グループで
ワークショップ



ワークショップのテーマ：【「社会に開かれた教育課程」の実現について】

所属:

《テーマ》

《洗い出し》

《解決策・アクション》

《願い》

①テーマ
の方向

②学校の課題

- ・教員の困りごと
- ・教職員の負担となっている事例
- ・子どもを取り巻く地域の課題等

③解決のアイデア

- ・学校内の教職員の中で完結できるものとは
- ・家庭、地域それぞれの立場での役割分担とは
- ・「社会に開かれた教育課程」を推進していくための学校・家庭・地域の連携・協働とは

★《ビジョン》
「目指す方向」

学校の地域ととも、「社会に開かれた教育課程」をどう実現していくのか

《熟議事例》

1. これまで学校が果たしてきた役割とはいったいどういったものなのか
2. 急激に変化する時代における学校教育への影響とは何か
3. 急激に変化する時代の中で、地域住民は学校に対してどのような役割を期待しているのだろうか
4. これからの教育活動で、学校だけでは解決できない課題等について、どのようなものが考えられるか

社会の多様化の中で、子どもたちは、自分の力で生活する能力を身に付けることが必要である。学校は、子どもたちの学びの場として、社会と連携・協働し、子どもたちの成長を支える役割を果たす必要がある。

3 初任者研修の成果と課題



(1) CSのセッションの研修評価

研修達成度平均 3.7/4.0

(2) 受講者（初任者）の感想（一部抜粋）

- ・総合的な学習の時間とCSについて、深い学びをすることができました。自分は1年生の担任なので、これから色々な体験をするようになると思います。地域の人との連携がとれるような、そして終わった時に生徒の自己肯定感が高まり、貢献したなという気持ちが芽生えるような活動、学習ができればいいなと思いました。
- ・総合的な学習とコミュニティ・スクールには共通点があると思った。特に、梶原先生の講義で紹介された人間の究極の幸せの中の『人の役に立つこと』、『人に必要とされること』は総合的な学習の時間に生徒らに感じさせることができると考える。この幸せは大人でも子どもでも嬉しいと感じる事だ思う。自分が幸せと感じることを子どもたちにも感じてもらえるよう、研鑽を積みたい。

(2) 受講者（初任者）の感想（一部抜粋）

- ・コミュニティ・スクールと総合的な学習の時間について共通点を考えてみました。どちらも、課題を考え、そこからみんなで探究し、地域の人と共により良い学校や、町おこしについて考えていくことが似ていると考えました。今までは、なんとなくしか理解していなかったコミュニティ・スクールのことが今日の研修で総合的な学習の時間との関連性から理解を深められました。
- ・コミュニティ・スクールが導入されると、教員の負担がさらに増えると思っていましたが、地域の方とコミュニケーションをとりながら学校を円滑に運営することができたらいいなと思いました。
- ・地域の方に協力していただき、先生の仕事の負担を減らせるような取り組みができたら、もっと丁寧に生徒1人1人を見ることができるとし、地域で生徒を育てることへ繋がるのではないかなと思いました。



(2) 受講者（初任者）の感想（一部抜粋）

- ・本校はコミュニティ・スクール2年目であり、活動自体はしているが、管理職と各主任が地域の方々に学校運営について話を行なっているだけである。
- ・コミュニティ・スクールについては、本校に戻って管理職に聞いて、コミュニティ・スクールであることを知りました。実際に会議もあったことも知りました。頻繁に地域の人に参加してもらいながら学校を盛り上げていきたい。

think up



(3) 研修の成果と課題

○初任者の多くは、総合的な学習の時間とCSの相乗効果に気付くとともに、今後の具体的な取組をイメージできるなど、初任者の視野を広げる研修となった。研修の所期の目標を達成できた。

▲上記初任者の感想にもあるが、研修中に、講師が初任者全体に向かって「自分の学校がCSである人は手を挙げて」と問いかけたが、手を挙げた人はほんのわずかだった。

コミュニティ・スクールという言葉は知っていても、自分の学校がコミュニティ・スクールであるか否かは知らないという現実が明らかになった。

校長等の中にはCSの効果を実感・イメージできていない者も多々存在するのではないか。

校長等がキーパーソンとして機能するため、初任者から管理職まで体系的な研修の構築が必要である。



おわりに

持続可能なCSに するために

— CSを立ち上げた校長の経験から —

- ①活動のマンネリ化・形骸化 ⇔ キーパーソンの育成
- ②活動費の捻出 ⇔ 自立した組織経営の発想
- ③CSと協働活動は、“ふるさと創生”の両輪。「地域とともにある学校づくり」か「学校とともにある地域づくり」か、当事者間で熟議・すりあわせの場。
- ④多様な大人の姿を感じて子どもは育つ。地域に関心をもつ。学校は人に任せる勇気と決断を。

ご静聴ありがとうございました。